

街の防災山から見守る

京都大学阿武山観測所 大阪府高槻市

阿武山の山腹に開設されて今年で85年となる



時の回廊

北摂の山並みに連なる阿武山に白い塔がそびえる。内陸地震を研究するために開設されて今年で85年となる京都大学阿武山観測所(大阪府高槻市)だ。1年がかりの耐震補強や補修を終え、休止していた一般見学会を9月から再開した。

映画のロケ地に

遠目には簡素に見える建物だが、訪れると玄関に円柱が並び、窓には隅丸の意匠が取り入れられるなど、シックで重厚な趣。近年、映画「プリンセス・トヨトミ」が撮影されるなど映画やテレビドラマのロケが増えたというのもうなずける。

「建物2棟を斜面に巧みに配置してある。各所のデザインも控えめな捻り方が味がある」と飯尾能久所長。補修では雰囲気を変えないよう配慮したそうだ。建築されたのは昭和5年(1930年)。それまで

は京都市内の大学構内で観測していたが、都市化が進んだ影響を避けるため人里離れた山中が選ばれた。建設には後に日本航空会長などを務めた実業家、原邦造の奨学金から支援を受け、地元から約10分の用地を300年契約で借用した。

設計者は京都大花山天文台や同志社大学明徳館なども手掛け、後に京都工芸繊維大学学長を務めた大倉三郎。この時代の特徴がよく表れている建物」と関西大学の橋寺知子准教授(近代建築史)は解説する。当時は装飾に富んだ様式建築から簡素で機能的なモダニズム建築へと変わりつつあ

た時期。観測所のデザインには、曲線や曲面などの装飾性を加味する表現主義の影響もうかがえるという。ただしシンボルともいえざる塔は「実は何かの機能があつたわけではない」と飯尾所長は話す。初代所長の志田順がドイツ留学の際、目にした博物館や研究所の姿に倣ったとの説がある。

この観測所には各時代の最新の地震計が次々と設置され、長年、地震研究の最前線だった。60年代には世界標準地震計網の一翼を担い、70年代は日本各地のデータを集約する地震観測の一大拠点となった。だが95年、宇治キャンパスに新施設が建設され主要設備が移設されると、観測点の1つに格下げに。廃止の声が出たこともあるという。

地震計を展示

そんな折、2007年に大阪府教育委員会が近代化

遺産として評価したことが一つの転機となった。09年以降は「満点計画」の拠点となり、活気がよみがえった。この計画は、手のひらサイズで手軽に設置できる最新型の地震計を特定地域に多数設置するプロジェクトで、国内外4地域で展開中。データ集約や機器整備などを所内で行っている。

近年は歴代の地震計を展示して地震学の歩みを学ぶサイエンスミュージアムとしても活用され、地元ボランティアの手で見学会が催されて盛況だ。その一人、杖本富夫さん(68)は見学会への参加を機に2年前、案内役に転じた。「毎日のように見上げるだけに地元住民にはなじみの深い建物。子供たちから『よく分かった』と言われるとうれしい」と顔をほころばせる。

文 大阪・文化担当

写真 伊藤航



開設当初に設置されていた地震計も展示

《交通》JR京都線・高槻駅または摂津富田駅から公団阿武山行き高槻市営バスに乗り大和バス下車、徒歩約15分。
《見学会》秋季は10月11、20、24日、11月4、8、17、21日。午前・午後の部があり要予約。各回定員30人。申し込みは<http://aoyama.com>。問い合わせは072・694・8848。

電子版にバックナンバーを掲載。▶Web刊→特集→関西発